令和8年度文化庁文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)
令和8年度奈良市文化振興補助金
令和8年度地域づくり団体活動支援事業

なら燈花会能

宝山寺世阿弥自筆本に依る復曲能の上演

世阿弥本 能 雲林院

現行曲と復曲能の観比べ

現行曲 仕舞 雲林院 クセ 観世銕之丞
仕舞 雲林院 キリ 生一 知哉

出典：京都国立博物館 Kyoto National Museum

シテ 山中雅志
山階彌右衛門

令和8年8月1日土曜日
奈良春日野国際フォーラム甍

［第一部］11:00開始(10:30開場)
2階会議室

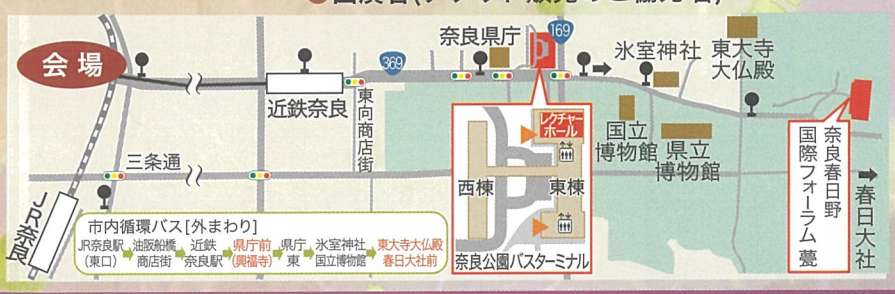
講演『在原業平ゆかりの奈良』
～業平生誕1200年の時を経て～
講師 法政大学名誉教授
野上記念 法政大学能楽研究所顧問 西野春雄

［第二部］14:00開始
能楽ホール

入場料
前売 一般：6,000円
当日 一般：6,500円
学生 前売当日共：2,000円
全席自由

切符販売開始：
令和7年6月2日(火)

切符取扱
●奈良能事務局
Tel ：0742(24)5171(不在時留守電対応)
Mail：npohoujin.naranoh@gmail.com
グーグルフォーム：右記QRコード(手数料不要)
●オンラインチケット
チケットぴあ：Pコード542062(要手数料)
●奈良春日野国際フォーラム甍(休館日あり)
Tel：0742-27-2630
●出演者(チケット販売のご協力者)



お能って何？
-バスタDE 能楽入門講座 -

令和8年7/20(月・祝)10:00開始 9:45開場
奈良公園バスターミナル レクチャーホール

●能楽体験
〈講師〉観世流シテ方 山中雅志
観世流大鼓方 森山泰幸

［参加費］当日 1,000円
8/1 燈花会能入場券提示で受講無料、当日会場で切符をご購入の方も無料
全席自由

ご予約・お問い合わせ：左記の奈良能事務所まで
受講券購入：チケットぴあ Pコード：542061

【主催】NPO法人奈良能 【後援】奈良市(文化振興課) 奈良県 (公社)奈良市観光協会 (一財)奈良県ビジターズビューロー
お問い合わせ：NPO法人奈良能 Tel：0742(24)5171 Mail：npohoujin.naranoh@gmail.com
◎当日来場者用駐車場はございません(身体障碍等、事情のある方は奈良能へお問合せ下さい)

なら燈花会能

日令和八年八月一日土曜日
於 奈良春日野国際フォーラム 甍

～宝山寺所蔵世阿弥自筆本に依る復曲能～

◆第一部◆午前十一時開始　甍二階会議室

講演『在原業平ゆかりの奈良』
～業平生誕一二〇〇年の時を経て～

講師　法政大学名誉教授
野上記念　法政大学能楽研究所顧問
西野　春雄
（午後一時終了予定）

◆第二部◆午後二時開始　能楽ホール

《仕舞》
雲林院　クセ　観世銕之丞　上田　宜照
雲林院　キリ　生一　知哉　樹下　千慧
井戸　良祐
上野　朝彦

《能》
山中　雅志
世阿弥本　山階彌右衛門
雲林院
有松　遼一　森山　泰幸　中田　弘美
善竹　隆平　荒木　建作　杉　信太朗
安藤　貴康　上田　宜照　生一　知哉
観世銕之丞　上野　朝彦　藤井　完治
井戸　良祐　上田　拓司
（午後四時終了予定）

主催　奈良能

※事情により、演者を変更させて頂く場合がございます。

今回のなら燈花会能は奈良生駒宝山寺所蔵世阿弥自筆本に依る復曲能『世阿弥本　雲林院（うんりんいん）』と、現行曲『雲林院』を仕舞にて、講演を交えて観比べをして頂きます。

奈良生駒宝山寺では毎年八月八日の世阿弥忌に、重要文化財の世阿弥自筆の謡本が虫干しを兼ねて公開されていますが、その中の『雲林院』は伝承されている現行曲『雲林院』とは大きく異なる物語となっています。昭和57年、この世阿弥自筆能本を元に、今回ご登壇頂く西野春雄先生、八世観世銕之亟先生他の多大なご尽力により、法政大学能楽研究所によって、復曲能『世阿弥本 雲林院』として上演されました。

◆第一部　講演『在原業平ゆかりの奈良』

講師略歴　昭和18年八戸市生まれ。法政大学名誉教授。同大学文学部教授・能楽研究所所長を歴任。能楽の総合的研究に取り組み、特に廃絶曲の研究分野では著しい業績を修める。主な著書共著に『世阿弥』（ミネルヴァ書房）、『謡曲百番』（岩波書店）、『能面の世界』（平凡社）、『世阿弥』（創元社）、共編に『能・狂言事典』（平凡社）他、復曲能《当願暮頭》《雪鬼》《鐘巻》《松山天狗》《高安》《実方》《箙》《粉河祇王》、新作能《草枕》《ジャンヌ・ダルク》など能本作成も多数。令和3年瑞宝中綬章受章。能《綱》作者・監修者。

◆第二部　能楽公演

■仕舞［現行曲］『雲林院クセ』『雲林院キリ』　シテ（主人公）：在原業平（ありわらのなりひら）

在原業平は天皇の血縁として生まれましたが、政変により臣籍降下、在原姓となりました。美男で歌を詠む才に恵まれ、古典『伊勢物語』の主人公は業平とされています。復曲能に先立ち、現行曲を仕舞でご覧いただきます。現行曲は京都紫野の寺、雲林院を舞台に、『伊勢物語』の愛読者と業平の霊が、和歌や物語について語り合う風雅なお話で、世阿弥自筆本にまさる、美しい詞章が散りばめられています。

〽思ひ知らずも迷ひ行く　かづける衣は紅葉がさね　緋の袴踏みしだき　誘ひ出づるや　まめ男…
〽言の葉草のかりそめに　かく著せる古の　伊勢物語　語る夜もすがら覚むる夢となりにけりや…

■能『世阿弥本　雲林院』　前シテ：老人（住吉明神の化身）　ワキ：公光（伊勢物語好き）
後シテ：藤原の基経（霊）　ツレ：二條の后（霊）

舞台概要　〈前場〉伊勢物語に恥る芦屋の公光は夢に導かれ、京都紫野の雲林院に着き、桜の一枝を折り取ると、現れた老人にとがめられ、問答になります。〽**げに枝を惜しむはまた春のため　手折るは見ぬ人のため**　**惜しむも乞ふも情あり**。老人は公光に、ここは二條の后の山荘跡と言い、桜の下で寝て待てば、私が業平かどうかわかるだろうと、霞んで消えます。〈中入り〉には「自筆本」には無いワキとアイの問答があり、『世阿弥本　雲林院』の物語の背景を判り易く語ってくれます。曰く、伊勢物語にある「昔男ありけり」とは業平の事、業平は三千余人の女性と契り、そこから選びて伊勢物語に著したが、特に二條の后（清和天皇后）に思いを寄せ、后を盗み出した。伊勢物語の芥川の段には「鬼一口に食ひてけり」とあるが、これは后の兄基経が鬼のごとくに怒り狂い、追いかけて后を奪い返した事を書き表している。曰く、別の段には「人のむすめを盗みて武蔵野へ行く」とあり、業平にまめな男、まめ男と異名をつけたと聞く、などと語ります。〈後場〉公光が桜の下で寝ていると、（業平と逃避行した）緋の袴姿の二條の后の霊が現れ、伊勢物語の事を語ります。〽**げにげに伊勢や日向のことはたれかは定めありぬべき**　因みに「伊勢や日向」とはつじつまが合わないことを指します。〽**武蔵塚と申すはげに春日野のうちなれや**　自らをアイ語りに有った「人のむすめを盗みて武蔵野へ行く」に例えます。そこへ怒り狂って「鬼一口」の姿となった兄基経の霊が現れ、働事（はたらきごと）として「立廻り」を演じます。〽**はるばる来ぬる　恋路の坂行くは　苦しや宇津の山**　基経は松明を振り立てて塚の内に入り、業平と隠れていた后を取り返して帰りますが、それも公光の夢でした。世阿弥自筆の『雲林院』前場は現行曲と同じですが、後場は洗練された現行曲と異なり、コジれた愛憎劇となっており、業平も登場しません。伊勢物語の世界に遊ぶ、古人の深い美意識に、興味が尽きません。